



# 和歌山県子供の生活実態調査（支援者票）

## ご記入にあたって

- 部署・機関を代表しての見解ではなく、支援者個人としての経験やご意見を率直にご回答ください。
- 「その他」に○印をつけられた場合には、（ ）内に具体的な内容をご記入ください。
- ご記入は、黒や青のボールペンまたは鉛筆で、はっきりとわかりやすくお願いします。
- 回答は無記名でお願いします。いただいた回答は統計的に処理され、回答者個人が特定されることはありません。
- ご記入後は返信用封筒に入れ、**8月3日（金）までに**ポストに投函してください。

## お問い合わせについて

この調査は、和歌山県が実施しています。  
調査に関するお問い合わせは、下記までお願いします。

### お問い合わせ先

電話番号： 075-316-3508（9:00～21:00 土日・祝日を含む）

（株式会社ジャパンインターナショナル総合研究所\*和歌山県子供の生活実態調査担当）

※和歌山県より本調査の集計・分析を委託された会社です

## あなたのことについてお尋ねします

問1 あなたはおいくつですか。あてはまる番号1つに○をつけてください。

1 20歳代以下    2 30歳代    3 40歳代    4 50歳代    5 60歳代    6 70歳代以上

問2 どの市町村で働いておられますか。あてはまる番号1つに○をつけてください。

なお、市町村が複数にまたがる場合は、最も長い時間働いているものに1つだけ○をつけてください。

1 和歌山市	8 紀の川市	15 広川町	22 日高川町	29 北山村
2 海南市	9 岩出市	16 有田川町	23 白浜町町	30 串本町
3 橋本市	10 紀美野町	17 美浜町	24 上富田町	
4 有田市	11 かつらぎ町	18 日高町	25 すさみ町	
5 御坊市	12 九度山町	19 由良町	26 那智勝浦町	
6 田辺市	13 高野町	20 印南町	27 太地町	
7 新宮市	14 湯浅町	21 みなべ町	28 古座川町	

問3 働いておられる機関はどれですか。あてはまる番号1つに○をつけてください。

なお、複数ある場合は、主なものに1つだけ○をつけてください。

1 保育所	8 市町村 ひとり親家庭担当課	15 振興局 生活保護担当課
2 認定こども園	9 市町村 保育担当課	16 振興局 ひとり親家庭担当課
3 幼稚園	10 児童館・隣保館	17 児童相談所
4 小学校	11 子育て世代包括支援センター	18 児童福祉施設
5 中学校	12 放課後児童クラブ	19 子供関連 NPO 法人
6 市町村 母子保健担当課	13 社会福祉協議会	20 その他
7 市町村 生活保護担当課	14 主任児童委員	( )

問4 どのような立場でお仕事をなさっていますか。あてはまる番号1つに○をつけてください。

なお、複数ある場合は、主なものに1つだけ○をつけてください。

1 行政職員	8 教諭	15 精神保健福祉士
2 保健師	9 養護教員	16 スクールソーシャルワーカー (SSW)
3 家庭児童相談員	10 施設長(所属長)	17 スクールカウンセラー (SC)
4 母子・父子自立支援員	11 指導員	18 その他
5 児童福祉司	12 NPO スタッフ	( )
6 臨床心理士	13 社協スタッフ	
7 保育士	14 社会福祉士	

問5 今の職場で満何年働いておられますか。(1年未満の場合は「0年」とご記入ください。)

また、SSW や SC の方は、現在、受け持っている学校のうち最も長い期間をご記入ください。)

年

問6 現在従事している業務と同じような業務(前の職場での経験も含めて)を満何年行っていますか。

(1年未満の場合は「0年」とご記入ください。)

年

## 「子供の貧困」に関する、あなた自身のご経験についてうかがいます

問 7 どのような状況にある子供を「貧困状況にある」と考えますか。あてはまる番号すべてに○をつけてください。

- |                                   |   |
|-----------------------------------|---|
| 1 子供のいる世帯(以下、「世帯」という)が生活保護を受給している |   |
| 2 世帯が児童扶養手当(ひとり親家庭に対する手当)を受給している  |   |
| 3 世帯が就学援助費(子供の学用品費等に対する援助)を受給している |   |
| 4 子供が食事を十分にとれていない                 |   |
| 5 子供の教育に十分にお金がかけていない              |   |
| 6 子供が身体の成長や季節に応じた服装をしていない         |   |
| 7 子供が医療にかかるのを控えている                |   |
| 8 子供の住環境が劣悪である                    |   |
| 9 その他(あれば具体的に:                    | ) |
| 10 わからない                          |   |

問 8 これまでの経験から、貧困状況にある子供は、どのような状況によくあると思いますか。あてはまる番号すべてに○をつけてください。

- |                     |                      |
|---------------------|----------------------|
| 1 両親が不仲である          | 13 学校や職場に友人がいない      |
| 2 ひとり親家庭である         | 14 学校や職場でいじめを受けている   |
| 3 家庭が地域から孤立している     | 15 不登校を経験している        |
| 4 親から必要以上に干渉されている   | 16 学校を中退している         |
| 5 親から過度の期待をかけられている  | 17 進学を断念している         |
| 6 親から放任(ネグレクト)されている | 18 就職後1年以内に離職している    |
| 7 親から身体的虐待を受けている    | 19 自傷行為をしている         |
| 8 親から心理的虐待を受けている    | 20 DVを含む家庭内暴力がある     |
| 9 親から性的虐待を受けている     | 21 非行や非行につながる問題行動がある |
| 10 親が家庭を顧みていない      | 22 その他(具体的に:         |
| 11 引越しや転校が多い        | 23 わからない             |
| 12 学校の授業が理解できていない   |                      |

問 9 これまでのご経験から見て、貧困状況にある子供はどのような項目において欠如が見られると思いますか。あてはまる番号すべてに○をつけてください。

- |                    |                      |
|--------------------|----------------------|
| 1 読み書き・計算などの基礎的な学力 | 9 周囲からの評価への適切な反応     |
| 2 こころの状態の安定性・心身の健康 | 10 認知(ものの見方・考え方・価値観) |
| 3 健全な生活習慣・食習慣      | 11 生活自立能力            |
| 4 コミュニケーション能力      | 12 意欲・チャレンジ精神        |
| 5 他者への共感力や協調性      | 13 忍耐力               |
| 6 他者への信頼感          | 14 その他(具体的に:         |
| 7 自己表現力            | 15 わからない             |
| 8 自己肯定感・自尊心        | 16 特に欠如は見られない        |

問 10 あなたは背景に貧困が伴うと考えられる子供や保護者に対し、これまでに次のような支援を行った経験がありますか。行ったことがある場合は、その支援には効果があったと考えますか。A～Uのそれぞれについて、あてはまる番号1つに○をしてください。その他、取り組んだ支援がある場合は、V～Xの括弧内に支援内容を記載し、あてはまる番号1つに○をしてください。

		支援の 経験なし	支援の経験あり				
			効果が あった	ある程度 効果が あった	あまり 効果が なかった	効果が なかった	わから ない
子供への支援	A 居場所づくり(遊び・読書等の場)	1	2	3	4	5	6
	B 食事の提供	1	2	3	4	5	6
	C 学習の支援	1	2	3	4	5	6
	D 進路相談	1	2	3	4	5	6
	E 就職支援	1	2	3	4	5	6
	F 家庭生活の支援・指導	1	2	3	4	5	6
	G 話し相手になる	1	2	3	4	5	6
	H 支援制度・情報の提供	1	2	3	4	5	6
保護者への支援	I 就労支援	1	2	3	4	5	6
	J 生活相談	1	2	3	4	5	6
	K 教育・子育て相談	1	2	3	4	5	6
	L 支援制度・情報の提供	1	2	3	4	5	6
	M 申請手続き等の支援	1	2	3	4	5	6
	N 家事・子育ての支援	1	2	3	4	5	6
	O 家計の管理の支援	1	2	3	4	5	6
	P 話し相手になる	1	2	3	4	5	6
家庭への支援	Q 家庭訪問	1	2	3	4	5	6
	R 見守り、地域連携	1	2	3	4	5	6
	S 関係機関との情報共有	1	2	3	4	5	6
	T 子供の保護	1	2	3	4	5	6
	U 家族の人間関係の支援	1	2	3	4	5	6
V	その他1( )		2	3	4	5	6
W	その他2( )		2	3	4	5	6
X	その他3( )		2	3	4	5	6

問 11 貧困状況にある家庭への支援にあたって、どのような点が困難だと感じていますか。

特に困難を感じる番号 3 つに、○をつけてください。

- |                          |                      |
|--------------------------|----------------------|
| 1 保護者との信頼関係づくり           | 9 支援を受けることに対する周囲の理解  |
| 2 子供との信頼関係づくり            | 10 支援を行うための人・時間の不足   |
| 3 支援に用いることができる制度(資源)の少なさ | 11 支援を行うための予算の不足     |
| 4 支援者間での連携               | 12 組織的に取り組むための体制づくり  |
| 5 支援を行うための自分の知識・技術の乏しさ   | 13 本当に必要な子供に支援を届けること |
| 6 支援機関や支援制度に関する情報の少なさ    | 14 その他(具体的に: )       |
| 7 支援すべき子供や家庭の把握          | 15 特にない              |
| 8 支援を受けることへの保護者の同意・積極性   |                      |

問 12 (自分が所属する機関で実際に取り組まれている支援いかににかかわらず)一般的に、貧困状況に置かれた子供や親に対し、どのような支援がもっと必要だと思いますか。

特に必要だと思う番号 3 つに、○をつけてください。

- |                                  |  |
|----------------------------------|--|
| 1 経済的支援                          |  |
| 2 相談担当者の質的向上                     |  |
| 3 相談担当者の増員                       |  |
| 4 総合相談窓口の設定                      |  |
| 5 訪問による早期発見や生活支援                 |  |
| 6 保育サービスの提供(病児保育、送迎支援等も含む)       |  |
| 7 子供の居場所(遊び・読書等の場)の提供            |  |
| 8 学校での専門家(SSW 等)による支援            |  |
| 9 子供への学校以外での学習機会の提供              |  |
| 10 子供への文化的活動(自然体験学習、スポーツ等)の機会の提供 |  |
| 11 子供への食事の提供                     |  |
| 12 親への就労の支援                      |  |
| 13 親への医療機関受診勧奨                   |  |
| 14 子供の進学・就労の支援                   |  |
| 15 その他(あれば具体的に: )                |  |
| 16 わからない                         |  |

問 13 あなたは、次のうちどのような場所があれば、子供の貧困対策にとって有効だと思いますか。A～Fのそれぞれ、あてはまる番号1つに○をつけてください。

	有効だと思う	ある程度有効だと思う	あまり有効ではないと思う	有効ではないと思う	わからない
A 子供が(家以外で)平日の放課後に夜までいることができる場所をつくる	1	2	3	4	5
B 子供が(家以外で)休日にいることができる場所をつくる	1	2	3	4	5
C 子供が(家以外で)夕ごはんをみんなで食べることができる場所をつくる	1	2	3	4	5
D 子供が(家以外で)勉強ができる場所をつくる	1	2	3	4	5
E 子供に大学生、地域の人などが、勉強を無料で教えてくれる場所をつくる	1	2	3	4	5
F 子供が(学校以外で)なんでも相談できる場所をつくる	1	2	3	4	5

問 14 和歌山県では子供の貧困対策として次の3つの事業を平成28年度に開始しました。これらの3事業を、あなたは知っていますか。A～Cのそれぞれ、あてはまる番号1つに○をつけてください。

	知っている	聞いたことはある	知らない
A 和歌山子ども食堂支援	1	2	3
B 子どもの居場所づくり推進事業	1	2	3
C 和歌山県大学生等進学給付金	1	2	3

※和歌山子ども食堂支援：帰宅しても一人で過ごさざるを得ない子供に、みんなで食卓を囲み楽しく食事をする等家族の温かさを感じられる場所を提供する民間団体の取組を支援。

※子どもの居場所づくり推進事業：放課後等一人で過ごさなければならない子供等の居場所を、学校の空き教室や公民館等に設け、地域の方の参画を得て、学習意欲の向上や学習習慣の確立、自己肯定感の高揚等をめざす取組を推進。

※和歌山県大学生等進学給付金：進学意欲と学力が高いにもかかわらず、経済的な理由により修学を断念することなく安心して学べるよう、また、将来の地域社会及び地域産業の担い手となるよう支援するため、低所得世帯のUターン志望の学生に対して大学生等進学給付金を支給。

問 15 問 14 でお示した3つの事業は、子供の貧困対策にとって有効だと思いますか。A～Cのそれぞれ、あてはまる番号1つに○をつけてください。

	有効だと思う	ある程度有効だと思う	あまり有効ではないと思う	有効ではないと思う	わからない
A 和歌山子ども食堂支援	1	2	3	4	5
B 子どもの居場所づくり推進事業	1	2	3	4	5
C 和歌山県大学生等進学給付金	1	2	3	4	5

問 16 問 14 で取り上げた3事業について、または、和歌山県や県内市町村が取り組んでいる貧困状況にある家庭への支援に関して、特に改善が必要だと思うことや、今後力を入れて取り組むべきだと考えることについて、これまでの支援の経験を踏まえ、自由に記述してください。

質問は以上です。ご協力ありがとうございました。

8月3日(金)までに、同封の返送用封筒に入れ、ポストに投函してください。



**きいちゃん**

「和歌山県 PR キャラクター」

